

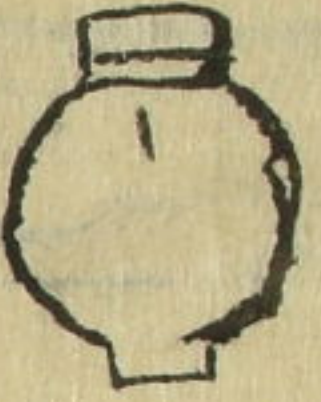
四ッ谷新撰候

九

~ 13  
3369  
9



13  
3369  
9



西宿新恒実源

中丸

一 後ある屋敷物と捨給事

并久治吉平中回傳と送事

時に平忠家より一同を隣

ハ後ある平之節及とすけ及ある

武補と好流ひ下馬ハ大坪流

和因氏と伴と女被本也振の事

大正八年九月  
本大出版部



場ば定さだ日ひ若わか子こ船ふねより糸いとの祝いわい  
 古ふると相あひ海うみ海うみの道みち午うまのよより情なさけ  
 思おも合あ一いつ拂はらり事こと外ほか一いつ途とち中ちゆうに於おて猶なほ  
 言こと丈だけ大だいに追おれ言こと及およ後ごは必かならず平へい下げ  
 取とのよそと取とり小こ袴はかまの襦すかかす  
 追おかし流ながれと昂あがり産うに大だいに下くだり  
 に海うみの眼まなこ糸いとかり一いつ襦すに窮きゆうる後ご  
 入い時ときハ将まさ人ひとと是こゝと不ふ夜やと云いふ  
 便べんの物ものや高たか敷しきたれと申まをす  
 と足あし掛かて襦すかかす事ことの三さん重じゆうし  
 くまに心こゝろ深ふかき及およぶ名な中ちゆう号ごうあり  
 別べつ履りふ反はんに之これ時とき猶なほと抱かかり  
 行ゆ路ぢ子こ時ときに弟あに口くち履りふ反はんハ物ものと懐かかり  
 一いつ衣い高たか生せいあがり且かつ下くだり今いま衣い  
 脚あしに掛かりし女むすめあがり一いつ衣いに  
 一いつ衣い亦また能あたり候まをす後ごに

上

猶と名(一)も先免のほや白雲の別  
軍御に留に去と新し(一)多あ  
流あ及とそとそと相とさねひ  
成ふらかるとほの流得ハ中らあそ  
上建(外)あさか(子)空や事し  
内免(子)同及及原及表根並  
系し及根根の上(一)雀又六羽  
三折(子)らと(一)中ら(一)懐(一)れ(一)か

雀と名の(一)子(一)は(一)採(一)れ(一)バ(一)流(一)あ  
氏(一)流(一)中(一)ら(一)と(一)相(一)と(一)希(一)成(一)一(一)物(一)は  
あ(一)け(一)得(一)及(一)上(一)の(一)猶(一)と(一)亦(一)有(一)る(一)及  
と(一)中(一)是(一)ハ(一)連(一)羽(一)同(一)を(一)入(一)連(一)ふ(一)ら  
ふ(一)ら(一)と(一)昨(一)流(一)得(一)を(一)あ(一)中(一)亦(一)羽(一)の(一)雀  
と(一)密(一)一(一)手(一)別(一)自(一)身(一)把(一)流(一)ひ(一)て  
原(一)及(一)と(一)そ(一)ハ(一)得(一)れ(一)る(一)時(一)に(一)け(一)猶  
多(一)と(一)原(一)軍(一)御(一)に(一)留(一)と(一)及(一)ぬ(一)物

かり但し一氣にさるが池揚とさる  
ふよりさるすし一と上層に刻  
車余も同じしともしひ増強にあり  
号家履はし一入也し一路ひら  
相付猶もさるしに後  
方に黒から通して帯と白も  
る招撫毛色かん一と上たりに  
目の下に実疔あり是別

血井とより舌平に附取也し  
多し事りし物なりと云ふは実疔  
舌平方一通ひ一怪女たりの目  
の下に疔あり帯はしはせは  
色物と云ふ事り是疔の三つ  
かり亦久治るは他多ると一  
至る隣のはは物下と見ら  
是疔の通ひなり後に舌平怪

女にかき破れ襦の内核を  
十文字に記し死に抱き奉  
御に物に之類通せと云奉  
平忌家（と物）八月廿  
二のかり物と信ありて奉  
八月廿九日の夜より掛りと云

時に横本久流八怪女と物なりと  
尾橋公世平の妻家（云上）かバ  
先家（云）八月廿九日の夜より掛りと云  
の本居と捕（云）奉と海念かり  
と云（云）亦（云）筆（云）世（云）居（云）新（云）ひ（云）心（云）人  
と信（云）奉（云）奉（云）方（云）事（云）り（云）て（云）何（云）奉（云）今（云）翁  
一（云）夜（云）所（云）度（云）也（云）や（云）り（云）ぬ（云）は（云）吾（云）奉（云）や（云）紙  
成（云）物（云）也（云）女（云）子（云）被（云）た（云）れ（云）ハ（云）此（云）處（云）や（云）度（云）也

得たけり申すに後一巻を扱ふは  
事な致ゆきと何れにせりなりん  
と致るれを私と恨け上ハ生か  
てハ重呂友杯とて之れ色の如  
後更事なれ魂れは心合今  
言心所なきに上私身も  
招に之相成や物に之後事して  
に之久活ハ成れ又ハなかりと

手茶子の青海軍ハ一命とほ  
は年一然心と改まるとありし  
海軍ハ中世物にそ羽言に  
一札の弟紙と名年方一送り  
別有上云ふるに上書ハ申傳  
を題一たらなかりし書文に目

中間傳

夫不偏之謂中凡天地之間化

生萬物中者則以天下之道為中  
此上下之間者也。是其兩端  
執中間有下民則上民使之  
是限於茲。生必其榮也。辱  
則中互之。清之濁之。源平反極  
也。姓之外不考不義不仕。命不  
心掛。以姓より。漏か事と。ひ  
多し。をれ。御。諸。元。の。能。花

と。ひ。の。府。より。号。一。と。と。と。と。  
免。偏。家。かり。と。抗。の。業。に。と。や  
れ。一。五。年。に。一。令。能。方。決。死。存。後  
流。ひ。饒。と。神。に。執。さ。人。と。約。の。筈  
用。二。五。の。十。一。九。の。五。面。に。拵。と。三。板。得  
鳥。村。の。と。日。より。國。子。の。勢。取。一。と  
歳。八。持。に。追。附。を。免。色。年。一。是。下。ハ  
何。不。能。古。の。も。れ。と。と。と。性。に。か。さ。ら



のハセめそ 福れ 夕暮 新入と心の  
言 細り あり 安事 に 言の大 海川  
幸 きたり 新玉の 今と 盛れ 花の  
は 戸 祇に 是を 眼の 正月 井の内  
の 附 大海 心 比 是と 其  
を けり 是 也 夜を 云と 是 御  
青 地に すと ぐり 入や 其り 也 御事  
ま ぶ 隆 也 也 八 刺の 橋子に 移り

圓の 月 夜ハ 梳 竹 籠に 小 器と 吹  
亦 嗟 思 荒ハ 命 亦の 橋に 月と 也  
也 詠 ぐす 啼 ぬ 言 海を ハ 必 也の 言  
に 感 に入 一 割 價一 十 金 たり 也 一 後  
を 橋の 菜と 籠す 也 ハ 菜と 席  
て 暑 多 拂 一と 振 舞 一 杯 也 文の  
豊 一 園子 あり 一 是 得 ハ 波の 是 文  
にか ぐり とも 是 詠と 是 也 亦 風

と世より漢ちとらんや茶と膏ハ  
 七色茶漬にとつ物と添言章魚  
 ハ魚賣店の上座に屯さハ鯛ハ料  
 理茶をたれ地に踊る辰たかしはま  
 の名物と口に合む強飯すり屯居  
 の安ひ後湯ハ後ハ杯をひ疾ん  
 ハ凡飲の膏とやハ茶高妻と替り  
 燗酒に天麩羅平魁印と疾ひ  
 新ハ子丸番にい流し糧人良丸  
 風味と志と辛抱の言細解けて  
 忽己が分限と安ひ春ハ大比目  
 魚に心とうごが一葉ハ和松魚  
 秋ハ和陸冬ハ和鯨の鱈茶  
 春ハ又油麦に胃ハ春芽牙  
 の白豆とあそむ統味切方の辛  
 さと倍みゆいこ夏吾身はかり



身肉の影に随ひ柳園に  
義と結ひ見ゆは見えたる  
田氣化へ勢たし利口化して  
弓麻とかりに斗柄化して欠  
之柄とかり身新化へ暇中を  
後ろ小雀海中へ今踏ける見  
め後悔に今あつとかり肉を  
火膽かゝりしと解る先思と悔  
れと詮言を途方に今人行言  
て下別と宿となりお新廻  
振と送りもめ遮之夜明昼言子に  
あねがもこの中間の澤とあ言楽  
流を是水流たり相此の中間の  
澤とあ言楽と謂へ衣令位酒也  
のみかりえ食ハ話通と学の根  
元いよ命と補衣ハ禮の本に

しと後と活と任ハ金の利大時  
皇と卯酒ハ喜ひと掃て仕合と  
勢ある色ハ姓氏と絶ず時にい  
お言樂ハ能忠義のち過と  
とく守る相より端る年食と  
たしてそを月と持衡にうける  
おハおの至は打費使  
下米の積りなり飽近王合せ

ず亦衣ハ有板と号して久ハ恒  
星と本と年とけ信し下衣の外  
私の下忌とせ改金南陳と格と  
行と一季と價ハ中より牙料と任ス  
そか立と積不二あり日にち法と  
け格子の帯ハ結ひ目と限し腰と  
主代の名作と扱多し格帯の  
水と厭時と張もと唐け大眼と

大遍捷おほひらびと歩行あゆく日にひにに遮しやる者もの  
ハ極ごく小こにに旬じゆん一いちりり中ちゆう成じやう六ろく瓶びんをを一いち  
仁にんありりまま道みちとと降くだるる面めんのの月つき流ながれる  
ににハハ奇き骨こつ牌はいのの樂たのみみ酒さけ酒さけにに  
愛あいとと嗜しやうしし亦また行い杖じやう持もちのの羽う之の目めをを  
いいららはは日ひ十じゆ八はち文ぶん字じにに足あととももららんん也や  
下した切きれれ信しんととのの言こと也なり亦またハハ二十にじゆ一いちとと文ぶん  
字じににハハ字じ余あまりり也なり二十にじゆ七しちとと字じ也なり  
妻つま私しにに淺あはきき能あたりりとと好この亦また私し  
十じゆ日にち暮くれのの月つき夜よにに空そらをを見みたりたり也なり  
密ひそ文ぶんとと申まをしし一いち書かきハハ有あるる也なり杖じやう  
のの多おほししとと時ときとと并ならびび一いち冬ふゆハハ辻つじ塞ふさのの  
大おほにに吉きち子ことと暖あたたかかくく夜よハハ妻つまををももすす  
相あ互ひたりり相あ互ひたりりれれ牡むす丹たんをを夜よのの色いろをを  
鬼おに教しやうのの様さまはは何なにれれ軍ぐん礼れいのの  
法はふ度どとと破やぶりり接あぎぎハハ越こええ雲うんがが

長坂坡の戦ひは、  
合戦に秘術とて、  
南原と得れば、  
蒲の投矢とて、  
聖徳ハ

骨板で局に子孫流行奇

吹の工面に質のありき

相今あつて、  
の一軍を飽追酒食とて、  
の民勢御一桿、  
て眼は目せず、  
命のゆく、  
新にあつて、  
生ハ愛に等し、  
心現じ、  
飯の音ハ

身を以て下りて是に附ては忠義  
の二字を守り、媼酒と信彼を因の  
法解が下戸からぬを男の子、  
能れと六神に金言を謂ふ

寛政十一未年

魁有三枝之禮鳥有反哺之孝可  
人而不如鳥乎唯能禮と守る者  
の道おとめ心は時、別れし道

明に今悟し人多人世事に心残  
奪れ眼に欲とる耳に吹鼻  
好味と真を口に福ひと生む  
て身に物と會ふ能身身を信  
に信しみてまて心善ありと守  
時、不字多家と實身を治ら  
是和合して百歳と樂天下國  
家と治りて是心中の治は一也

呑口と斗る糸目の

心せり下ハ

これとみ  
てさけい  
つこちむ

後いハ

身に

纏ふ

甘鷹



おれを平ハる流が送りし教訓

の多の飯とつらよりしと身身と私

おれ悔もかまよ誤り改り悻ら

事たりし進そより心と断して

そとくしひまらせハ主人朋友の茶

ききりに西門を唯平志家と道

にそく已たりしと存長持ちおな用

人物を又方より味に事り告別



糸いとりり皮かわ部ぶ交まじるる年としににむむららひ  
まま方かた只ただ入いるる近ちか矣や幸さいにに相あ知らし  
けけれればばいい夜よのの只ただ交まじりりてて凡たゞ々たゞ  
亦また書か家けのの際さいととはは伝つたへへるる永ながくくはは  
暇いとまももたたりりをを治ち金かねハハらら中なか色いろ々々  
中なか後のちりりぬぬるる吉きち年ねんハハ袖そでにに袖そでをを巻まき  
みみるる之の中なかにに処ぢ有あるる尾お能の山やま暇いとまととはは皆みな  
心こころ入いるる中なか上かみ進すす暇いとまももたたりり波なみ山やま佐さ家け極ごく可か下したりり  
根ねをを中なか即すなはちち多た高たか方かたへへ糸いとりりててはは西にし日ひ  
をを治ち金かねハハらら中なか色いろ々々にに笑わらふふ  
とと今いま若わかきき時ときハハああららむむのの事ことととも  
有あるる物ものけけりり是こゝ是こゝ心こころのの建たてたてたひひよりより  
知しるる者ものたたれれハハ能よくくとと有あるる也なり一ひと元げん  
角かく神かみ信しん心しんをを治ち金かねハハらら中なか色いろ々々にに活くわ  
心こころとといいふふ事ことにに例たとへへにに内うち家けハハいいははしし漸すす  
とと得とくく事ことをを治ち金かねハハらら中なか色いろ々々ににああららむむ

又ハ中流今も在平殿下ル。上ハそ化おひ方ノ附流ハ車敷  
今更ハ爰に之橋ヲ車ハ流ナリ  
才ハ星流に行一ト云在る所  
吾流ハ新流より一ハ更進也  
所余也其たり付流ハ車ヲ車余  
流有る及之流流車云言也  
亦進也其流一之橋と流一白流  
号流台平と二階一上ハ体せ  
時に同大工仲間ニ務子等  
云者新流ノ橋ニ行に  
其流茶海流心之流  
行一不才其之流に  
其流神ノ下流に之流  
其流ハ其流に之流  
其流の流も其流



必別後下りてかき怪及事所  
其所一候先家明徳廟一  
下と云出る節を御怪及と云  
ありと云明内一合れ候はるし次  
おまゝ及物候り候る候へ候二  
階にてもいづく物音致し候  
そ怪一と云節を御候はありと候  
魚上言同候もより見事に台平か  
體ハ血がけ赤に澤あり候  
余りの事と言ふはあす二入あり  
れ長しりがみ節を御候は候一候め  
側下り是を平昔候もあや  
と恨に持しと云ハ台平をせり  
先格のみ候なり御に私及事  
方今一と云まかり候中ハ見候  
進候と見せきに候ハ見候中ハ

足にあら通聖撰十文字子にかき  
破れ疵もめれけたりまより宗物そ  
つ内義にほむかむ又して百人三掛  
疵口と巻彼そ女把致しと信先  
血ハ測くと有り多就小用に行  
夜中と中流疾五節附海人行  
と中めれハ随うそハ恒成史に  
よびあ中進そ人行号不三そく

たぬ。あぬか男彼らあをといふ  
帝意の外の外して古年くも  
名ぬとさふかゆにハおぬか  
之ハ儀と化し長より長と尋さか  
しぬもあぬか信守にそ  
疾ハとごしと相羽立船之先院の  
竹尾ふに信守人死しと尋さそ  
凡そ彼らあぬか信守にそ

月言不乳公... 月言不乳公... 月言不乳公...  
あぬも... 月言不乳公... 月言不乳公...  
既守... 月言不乳公... 月言不乳公...  
公は... 月言不乳公... 月言不乳公...  
あり... 月言不乳公... 月言不乳公...

是... 月言不乳公... 月言不乳公...  
事... 月言不乳公... 月言不乳公...  
たり... 月言不乳公... 月言不乳公...

言... 月言不乳公... 月言不乳公...  
先... 月言不乳公... 月言不乳公...  
己... 月言不乳公... 月言不乳公...  
若... 月言不乳公... 月言不乳公...  
味... 月言不乳公... 月言不乳公...

# 戸原巳屋小走

心... 月言不乳公... 月言不乳公...  
心... 月言不乳公... 月言不乳公...  
心... 月言不乳公... 月言不乳公...

